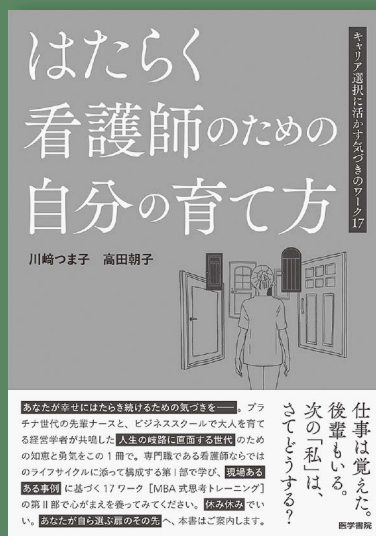


書評

はたらく
看護師のための
自分の育て方

- 著 川崎つま子, 高田朝子
- 定価 2200 円 (本体 2000 円 + 税 10%)
- 判型 A5
- 頁数 224
- 発行 医学書院

評者

東京医科歯科大学病院 看護師
石田陽子

はたらく看護師が
キャリアを考える時の道標となる1冊自らの次のステップに悩む
看護師へのエール

看護師として働く中で幾度となく自分自身の「今後」について迷うことがある。ただ、多くの看護師は、その「今後」について漠然としたイメージしか持っていないのではないだろうか。卒後数年は、院内教育システムの中にいるだけで、自然と看護師としての自分の育成につながる。だが、その数年を過ぎた頃から次にどのようなステップを目指していくのかを考える機会を持つ。それは、上司との面談の中で問われることもあるが、実際には多くの先輩たちを目にし、自分はどの道を進むのかを考えていく。

本書は、このような迷いや葛藤の中にある看護師に向けたエールのようなものであると思う。トップマネジメントを経験したプラチナナースの経験から培われた考え方の軸と、専門職について経営学の視点で分析された視点を中心にまとめられている。特に、著者の経験を振り返りながら生み出される多くの言葉は、臨床で働く看護師にとって、身近でありながらも、自分自身を肯定してくれる力強いものである。

また、本書を読み進めると、著者がいかに深いリフレクションのもとで日々を過ごしているかを理解できる。おそらく、日頃から鍛錬されたリフレクション能力によるものだと思うが、著者のそういったリフレクションを通した文章を読むことにより、読者も自身の経験をリフレクションする機会となる。そして、そのリフレクションから得た自分を見つけるきっかけを、整理して明確化していく方法がすぐに分かり、それを基により深く考えることができる。そのため、本書は、第1部から読み進めることで第II部でのワークがさらにスムーズに実践できる。

自身を知ることが
自ら行うキャリア選択の第一歩に

本書を通して一貫していることは、自分自身を知ること、そこからチャレンジすることの重要性である。私は、30歳頃からキャリアについて考えていた。どの道を進むのかという前向きなものというよりは、漠然とした不安の中にあっただと思う。専門職である看護師の生涯学習の幅の広がりによって、悩みはより増えている。ただ、私自身も本書の中で言われるように自分自身の意思決定に関する能力は低く、管理職となった時も自身で選択したとは言えなかった。

そんな中、与えられたキャリアではなく、自分で考えてキャリア選択をするきっかけとなったのは大学院への進学であった。経営学や社会学など幅広い学びを得られる社会人大学院生活で、さまざまな職種や年齢の人の考えに触れたことは大きな経験だった。飛躍的なキャリアの選択や変化はないが、小さな変化を感じ取ることはできる。自分にとって大切に思うことや自分の行動が何によって影響されるかを理解できたのである。自分を知ることが、キャリアを考える最初の一步であることを実感している。

現代社会と個の課題を網羅し、
解決法までも説明

本書は医療や社会の諸問題を包括的に網羅しつつ、現代社会の課題と自分自身の課題とを見比べながら読み進めることができる。さらに、その課題の解決の方法や考え方までも体系的に説明されている。看護師は、漠然とした問題から自然科学だけではなく社会科学の視点を携え、答えを導くことは日頃から得意としている。本書は、その力を自身へ発揮するための「はたらく看護師」としての道標となる1冊ではないかと思う。